

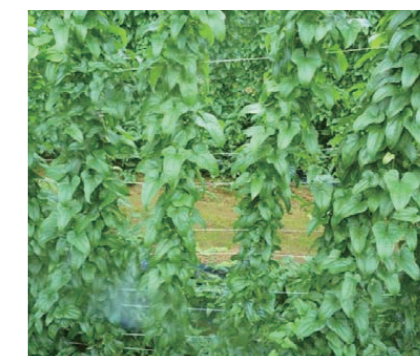
# 生分解性長芋ネットの 実用性検証試験



6月4日 展張時



10月11日 収穫前の状態



## 試験目的

天然繊維100%でできた完全分解する  
生分解性長芋ネットBCエコネットの実用性について検証する

## 試験作物 及び品種

長いも

## 試験資材 及び数量(規格)

BCエコネット 角目 24cm×10目×275m×10反  
角目 24cm×5目×275m×10反

## 慣行資材

生分解性長芋ネット

## 栽培方法

### 展張日

6月上旬

【栽植密度】 畝幅：72cm 株間：18cm

## 資材使用期間

6月上旬～10月下旬

## 試験区面積

約30a

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

展張時、

- ①ネットの端に紐の印がついておらず端を探すのに時間が掛かった。
- ②生分解性ネットと比較してざらざらしているため抵抗が大きく、滑りが悪かった。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

強度面では、生育期間中は特に問題なかった。

ネットの弛みなどは特に気にならなかったが、弛むとすればロープのテンションが低いためだと思われる。

### (3)資材の優位点

- ①分解速度の速さは現時点では評価できないが、1年程度で分解すれば非常に良い。今後の分解性について、雪解け後に調査を継続する。

### (4)資材の問題点

- ①素材がざらつきが大きく、展張時の滑りが悪く、作業性が落ちる。ロープを滑らせるときに、前側のネットが後ろ側のネットの下に入り込み、滑りが悪くなっているのではないと思われる。
- ②巻き取る際に、ネット下側のピンが当たる部分で切れることがあった。慣行品の生分解ネットでは切れることは無かった。その後の作業では、巻き取り速度を落として作業した。

## モニター感想

今回の試験において、展張作業性(滑り)、巻き取り作業性(強度)の点について、慣行品の生分解ネットの方が良かった。分解性について、生分解は分解に時間がかかると思われるが、1年程度である程度分解が進む

ようであれば、処理面では良い。

ネットの弛みや、展張中の強度については特に問題なかったが、ネット自体が若干重い。また、ネットの端が分かるように、上部と下部の2ヶ所か、少なくとも1ヶ所には紐などで印をつけてもらいたい。

今回感じたこの点について改善できなければ、導入はできない。

## JA担当者の感想(小峯課長)

作業性が慣行資材より悪くなると、普及性は低いと思う。また、価格面についても、現行ではPEネットとの価格差が大きいため、より低価格での供給が図れるように検討願いたい。

## 今後の使用について

改良して欲しい。

BCエコネットを導入するには、滑り・強度の改善、分解速度が慣行の生分解性ネットより早いことが重要。

葉や茎は2年から遅くとも3年あれば腐敗し、簡単にはらい落とせるようになるが、生分解性ネットはその時点でも分解がそれほど進んでいないことがあるため、BCエコネットの分解速度は引き続き調査する。

## 将来希望する資材について

長いもネットで言えば、①滑りの良さ、②巻き取り時に切れない強度、③早い分解(1年程度が理想)が備わり、慣行の生分解性ネットより低価格であることを希望する。

その他、生産者の作業性向上などに繋がるものは提案してもらいたい。